
岐阜県立関高等学校

校 長 林 雅浩

学校住所 関市桜ヶ丘 2 - 1 - 1

電話 (0575) 22-568

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第 8 条第 1 項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会 議 名 学校運営協議会 (第 1 回)

2 開催日時 令和 3 年 8 月 2 0 日 (金)

3 開催場所 書面開催

4 参 加 者	会 長	大野 正博	(朝日大学法学部 教授)
	副 会 長	福田 恵介	(福田刃物工業株式会社 取締役)
	委 員	平田 久美子	(平田建設株式会社 取締役)
		森 小百合	(関市 健康福祉部長)
		神谷 泰久	(関高等学校同窓会 副会長)
		上村 秀史	(関高等学校 P T A 会長)
	学 校 側	林 雅浩	校長
		高田 幸世	教頭
		小林 竜二郎	教頭
		寺倉 新一	事務部長
		川原 正史	教務主任
		杉山 広之	生徒指導主事
		片桐 良子	進路指導主事
		林 直樹	研究推進部長
		國枝 英俊	特別活動部長

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 「地域の学校」として本校の役割として期待されていること

意見 1 : 地域の問題を共に検討・解決すると同時に、高等学校時代における成功体験を通じ、秘めた才能を開花させ、将来を担っていく人材を育成することが期待されている。

意見 2 : 地域の活動だけでなく、世界も含めて地域外で関高の生徒がより多く活躍し、その影響が生徒や地域の人に広がることを期待する。現在コロナ禍だが、インターネットなどデジタルツールを活用しながら世界で活動し、地域に良い影響を与えてほしい。

意見 3 : 地元のリーダーになるような人材を創出する学校であることを期待している。

意見 4 : 地域を担うリーダーの育成と地域住民を巻き込んだ提言や活動を期待している。

意見 5 : 中濃圏域の普通科教育の基幹高校であるという認識も必要である。地域は関高生の自主的な活動を評価している。地域発信が成果として皆さんの力に還元されている。

意見 6 : 「元気よいあいさつ」「最低限のマナーを守る (生活態度や交通ルール等)」など、基本的なことも地域にとって大切である。

(2) 本校の育成方針について

意見 1 : 従来の、知識を習得する教育だけでなく、関高校がこれまで実践してきたように、様々な形でフィールドワークを展開することにより、得た知識を知恵に変えられる教育を施すことが重要である。Society5.0 時代に必要とされる生徒を育てていくことが重要である。

意見 2 : うまくいかないときでも、心を強くもって乗り越えられるような生徒を育てることが大切で

ある。困難なとき、逃げずに正面突破し、周りも巻き込みながら前に進める生徒を育ててほしい。

意見3：地元で働くことができる生徒、また、いろいろな職業を知り自ら選択できる力のある生徒の育成が必要である。

意見4：自己肯定感が高く、グローバルに活躍できる生徒の育成が必要である。

意見5：生徒が将来に向かって可能性を見出し、自己実現が図れる環境を作ってほしい。

意見6：理想像（生徒像）に当てはめるのではなく、生徒たちそれぞれの個性を伸ばしてほしい。

（3）本校の教育課程編成・実施方針について

意見1：校長を頂点とし、現在・所属している教諭の能力・考え方を集約し、明確な方向性を示した上で、教育にあたることが重要である。またその中で、個々の生徒の個性をさらに伸ばすことを意図し、様々な観点から、高等学校全体として協力し、各生徒を育てていくことが必要である。

意見2：生徒が失敗しないようにお膳立てするのではなく、小さな失敗をしながらもそれを克服できる仕組みを作ることが大切である。

意見3：進学をしても、その先にある「働くこと」をイメージできるような指導をしてほしい。

意見4：様々な年代の多様な社会人との交流の機会を作ること、企画・運営など自らで動く成功体験・失敗体験をさせてほしい。

意見5：生徒の主体的取組を促しそれを積極的評価する。基礎学力の向上と先端学術領域への啓蒙を図ることが重要である。

意見6：国際交流、IT活用、対話（意見交換）、部活動（対外試合強化など）といった様々な経験・場面を提供し、生徒育成の多くの機会を作るとよい。

（4）生徒募集方針について

意見1：（1）（2）の方針を実現できる体制を構築し、それを周知すれば、さらに生徒が集まることが期待される。「進取の気概、至誠の心、日々の練磨」という校訓の下、県指定「地域共創フラッグシップハイスクール事業」に基づく様々な取り組みを打ち出すとよいのではないかな。

意見2：幅広く門戸を広げ、より広い地域から様々な生徒の入学を募集する。本校に入学し、学問が「おもしろい」と思えるような仕掛けを多く作ってほしい。

意見3：大学でより深い学びをしたい生徒に門戸を開き、大学へ進学した後にどんな未来があるのかをしっかりと伝え、そこを目標とした学習ができる学校であってほしい。

意見4：将来の夢や目標をもてず不安をもっている生徒も、在学中にやってみたいことが見つかる学校であってほしい。

意見5：本校は入学を希望する全生徒に開かれた学校であり、生徒一人一人が将来に向かって可能性を見出し、自己実現を図っていくことのできる環境にあることを追求してほしい。

（5）より良い学校をつくるために

意見1：地域や卒業生の声を聴き、いつまでも地元から信頼される学校であり続けてほしい。

意見2：とにかく「学ぶこと」「知ること」はおもしろいということがわかり、学校へ行くことが楽しいという気持ちになる学校づくりを行ってほしい。

意見3：以前より地域との接点が多くなっている。今後もより深く周囲の大人とかかわることが、生徒の成長の一助となる。

意見4：地域に開かれた学校にして、地域資源をもっと活用できるとよい。

意見5：生徒が主体的に学べる学習環境を確保し、主体的諸活動の取組に対する積極的評価とサポートを行うことで、未来への明るい希望に満ちあふれている学校を目指してほしい。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会において、学校運営基本方針について全員より承認が得られた。

第1回の学校運営委員会にあたり、委員の方々に資料を郵送し、スクール・ポリシー策定の趣旨を理解したうえで、上記の（1）～（5）の意見が得られた。第2回学校運営委員会は、学校評価アンケート・スクール・ポリシー（素案）を提示して、検討する予定である。